

○議長(森 弘秋君) ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

7番 前原英石君。

○7番(前原英石君) 前原でございます。よろしくお願いをいたします。

2019年も、あとわずかとなりました。ことし、平成の天皇陛下が4月30日に退位をされ、皇太子徳仁親王殿下が5月1日午前0時に第126代天皇に即位されました。皇位継承に伴い、元号も「令和」と改まりました。

また、舟橋村議会は、平成最後となる任期満了に伴う舟橋村議会議員選挙が4月16日告示、4月21日投票で行われ、新たに7名の組織でスタートいたしました。

令和元年も残すところ、あと1カ月足らずとなり、元年最後の定例議会となりましたが、年に4度の一般質問でそれぞれ答弁をいただいた皆様、そしてきょうも大勢の方に傍聴いただいておりますが、これまで傍聴に来ていただいた皆様、そしてネットで議会をごらんになった皆様に心より感謝を申し上げまして、令和元年最後の一般質問に入らせていただきます。

通告しています質問は、早川誠一教育長に初心を問う、それと除雪及び消雪対策についての2点でございます。

それでは、まず早川誠一教育長に初心を問うということで1点目の質問を行います。

10月1日より舟橋村教育委員会教育長に就任されました早川誠一教育長ですが、教育長に就任され2カ月が経過しました。まだ現状の把握をされることに多くの時間を費やされておられることとは思いますが、舟橋村の学校教育、教育環境、生涯学習、社会体育、また教育長が所管される舟橋会館、舟橋村立図書館等について、現時点でどのように感じておられるのか、まず率直な感想をお聞かせください。

さて、本村を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化、情報通信技術の発展、国際化の進展、価値観の多様化、教育環境の質の向上に対する動きなど大きく変化をしていますが、教育長には、時代の変化に対応することのできる教育力の推進を行っていただきたいと思いますと思っております。

また、次世代を担う子どもたちが心豊かに成長するためには、一人の自立した人間として、志高く、強く生きていくとともに、人の心を思いやるなど、総合的な力を養うことのできる教育にも取り組んでいただきたいと思いますと思います。

そして、心豊かで活力のある生活を実現するために、歴史や伝統、文化の豊かさを身

近に感じ、守り伝えていくことや、文化やスポーツ活動に親しむことのできる環境づくりにも取り組んでいてもらいたいと思っております。

教育長には、このようなことに対しまして、これまでの経験や実績を存分に発揮していただき、一層の教育の進展に努めていていただきたいと考えております。

そこで、早川誠一教育長がこれから目指そうとしておられる舟橋村の教育全般についての初心をお伺いします。

続きまして、2点目の質問でございます。除雪及び消雪対策について。

村道東芦原舟橋駅線の道路拡幅に伴い、また一つ舟橋村のメインとなる道路が整備されましたが、その分除雪区間も増加し、除雪にかかる除雪費や除雪時間もこれまで以上に多くなると考えられます。

また、子育て支援賃貸住宅及び竹内住宅団地には新たに消雪設備も整備されていることから、地下水の枯渇などが懸念されます。

これまでも、小学校周辺や学童保育室（旧保育所）前は地下水の減少から低水位状態になることが多く、散水が停止することたびたび見受けられたと聞いております。そのようなことから、これまでも、思うように消雪機能が働かず、機械除雪で急場をしのいでるといったような話も聞きました。

12月に入り、本格的な雪のシーズンが目前にきています。昨年の冬に支障が出た問題箇所や問題点については、現在解決されているのでしょうか。また、積雪に対して万全な除雪、消雪体制が整っているかお聞きします。

最後に、中長期的な除雪、消雪などの雪対策を検討すべく、専門家を交えた除雪、積雪検討委員会等を設置すればと考えますが、当局にお聞きします。

住民の冬期間の通学・通勤等の日常生活に支障を来すことがないように、住んでよかった舟橋村と感じてもらえるよう、しっかりとした対応を行ってほしいと思います。

これで質問を終わりますが、答弁者の皆様には明快な答弁を期待し、令和元年最後の定例議会の一般質問とさせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（森 弘秋君） 教育長 早川誠一君。

○教育長（早川誠一君） 7番前原議員さんからいただいた、就任以来にかかわりました本村の教育活動全般に係る感想と初心について、お答えいたします。

まず、学校教育についてでございます。

昨年度までの3カ年の取り組みであります小中一貫教育推進事業に関連した、学年間を貫く「タテの学び合い」を幾つも見学しました。具体的には、小学6年生と中学3年生による総合的な学習の時間、これは平和教育についてでした。そして、小学5年生と中学2年生による地域学校保健委員会、これは「立腰で心と体を鍛えよう」というテーマでして、立腰というのは私も初めて聞きましたが、腰骨を前に出して姿勢を正すと。勉強するとき、食事をするとき姿勢を正すということが集中力を高めるというような効果もあるということで、たしか平成27年から中学校のほうで取り組んでいらっやって、そして今はこども園も含めての取り組みとなっております。また、中学校の学習発表会では、中学1年生が村立図書館で読み聞かせの講習を受けまして、その後、小学校全学年に読み聞かせをした、そういった報告がありました。

このような活動において、小学生が中学生を頼りながら、安心してともに学ぶ姿を目にし、9年間を通した学習の型、ここでは「ふなはし『学び合い』スタイル」と名づけていらっやいます。その型や話し上手、聞き上手などの言語活動の定着ぶりがよくわかりました。学校の先生方には、日ごろのご努力に敬意を表したいと思っております。

次に、生涯学習・社会教育においてでございます。

村民のニーズに合わせて、家庭、青少年、成人を対象とした多種多様な講座や活動が舟橋会館及び公民館で展開されているわけですが、その中でも学びや活動の成果を生かす機会として、村文化祭において、各種団体、サークルの皆さんが作品展示や演奏、ステージ発表などを笑顔でしておられる、そういうお姿を見て、とても印象に残りました。また、小中学校と青少年育成舟橋村民会議並びに各育成会と連携した教養講座、これもございまして、青少年教育の機会づくりにご尽力いただいております、感謝いたします。

続いて、社会体育・生涯スポーツについてでございますが、かつて県教育委員会の派遣スポーツ主事として本村にお世話になったころと変わらず、住民運動会、ことしはあいにく雨天で、レクリエーション大会でございましたが、それから体育協会の主催、ことしはビーチボール大会にたくさんの方が参加されて盛大に行われていることに正直驚き、感激いたしました。また、舟橋文化スポーツクラブ「バンドリー」の運営が定着し、中でもキンボールスポーツ教室からワールドカップに出場する指導者と選手を輩出できているということにも敬意を表したく思っております。

また、舟橋会館、村立図書館については、議員もそうお考えと思いますが、本村にと

って生涯学習・社会教育の拠点となる重要な施設と考えております。そして、両施設ともに、村内に限らず、村外の子どもたちや大人まで広く住民を受け入れており、このことから、ほかの市、町から一目置かれる施設でございます。

昨今は持続可能な社会づくりが必要とされており、そのことを意識した人づくり、つながりづくり、地域づくりのために開かれた施設運営に心がけてまいりたいと思っております。

終わりに、私が目指す職務全般についての初心をお尋ねですが、私は本村の教育行政をバランスよく運営できるように心がけたいと考えております。当然のことではございますが、バランスのよい運営とは、学校教育については、地域、舟橋村に愛着と誇りを持って、そして力強く生きていける、生きる力を育む学校教育でございます。そして、生涯学習、スポーツを含めた社会教育、こちらは、それぞれの経験を生かして地域に還元すると。そういった取り組みができればと思っております、各分野においていずれも発展的に運営できるように、関係者の皆様の意見を取り込みながら方策を練って実行に移すつもりでございます。その中で、私がこれまで各分野において勤務してきた経験を生かすことができるように職務に励んでまいりたいと考えております。

とは申しましても、現状を理解することから始めておまして、まだまだ知らない、見えていないことだらけですので、お気づきの際には遠慮なくご指導、ご助言をいただけるようお願いを申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 7番前原議員の、除雪対策についてのご質問にお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、今年度の除雪計画では、村道東芦原舟橋駅線の車道・歩道除雪、村道国重西部線の車道除雪が増加いたしました。また、消雪装置の設置では、リラフォートふなはしの駐車場に加え、まだ村道への移管は受けておりませんが、今後、竹内団地内が追加される見込みであります。

ご指摘のありました竹内団地の新設消雪装置に伴う地下水への影響につきましては、当該箇所付近の一般家庭の井戸の深度約30メートルから50メートルでありまして、ここから取水しております。消雪用の井戸では、深度104メートルまで掘削した上で、深度70メートルから104メートルまでの間約30メートルから取水しております、それ以外の部分からは、取水はしないようにしておると聞いております。双方で取

水位置が異なっている状況でありますので、特段大きな影響はないものと考えております。先月末には、通常使用する量（毎分1トン）の1.5倍に当たる量で消雪装置のテストを実施したところでありますが、周辺の井戸には影響がないことを確認しております。

また、小学校周辺の地下水の低水位の問題でありますけれども、今年度より舟橋駅南駐車場前の竹内団地南部線に設置されております消雪装置の移管を受けております。当該井戸は、団地周辺を賄う十分な水量があることを確認しておりますので、東芦原舟橋駅線の消雪工事に合わせまして、佐渡歯科医院から小学校バックネット側まで消雪管をつなぎかえることで、小学校周辺の水量を確保したいと考えております。

一方、除雪の体制につきましては、1980年の五六豪雪以来、実に37年ぶりの豪雪状態となりました一昨年同様の除雪台数を確保しておりますので、支障を来すことはないものと考えております。

次に、中長期的な雪対策についてであります。

現在村では、道路除雪につきましては、借り上げと民間保有の機械を利用し、業務自体を民間に委託しているため、機械の更新等の費用負担増は想定しておりません。しかしながら、除雪機の運転は危険がつきまとうことや、操作に当たっては特殊技能が必要となることから、除雪機オペレーター等のなり手不足や高齢化が深刻化しており、現在の体制を維持するためには人材確保が大変大きな課題となっております。

これは、本村だけではなく、全国各地の降雪地帯全ての課題でもありますので、富山県では除雪機オペレーター育成支援事業として、免許取得に係る費用等の一部を補助するなどの対応を進めておるところであります。

一方、村内の集落道や公民館周辺など除雪車の入れない場所の除雪では、現在、複数自治会からの地区ボランティアの方々に小型除雪機を貸与いたしまして、その対応をしていただいているところがございますけれども、今後の担い手不足が懸念もされるわけです。

議員からご指摘ありましたとおり、本村ではこうした課題を把握しておりますので、現在、全国の先駆事例を集めておまして、1つの事例を紹介いたしますと、山形県上山市では、地区住民によるボランティア除雪が行われていましたが、高齢化に伴い、これにかわる新たなボランティア組織といたしまして、市内の中学生や高校生に協力を求め、学生がボランティアとして参加するようになったそうであります。高齢者と学生の

世代間交流の効果もあったということでございまして、今後本村におきましても、事例収集を進めまして、本村にふさわしい地区住民との協働による新たな取り組みの方策を検討してまいることを申し上げまして、私からの答弁とさせていただきます。